地域再生計画評価調書(地方創生拠点整備交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	「いまばりサイクルシティ構想」を核とする広域観光推進計画	施設整備計画の名称	瀬戸内しまなみ海道沿線(大三島)における滞在・交流拠点整備事業	平成30年度評価
総合戦略における位置づけ	基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ア)サイクルシティ構想の推進 ①サイクルステーション構想推進 基本目標3. だれもが訪れたいと感じる魅力あふれるふるさとを創る 具体的施策(ウ)広域観光周遊ルートの形成 ①広域観光周遊ルートの形成 基本目標4. 中心部と周辺部が連携した日本でいちばん住みたい地域を創る 具体的施策(イ)日本でいちばん住みたい地域づくり ②小さな拠点を核とした地域づくり			

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標	基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度						達成度についての分析
		2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (平成32年)	最終年目標数値 2020年	
目標1 観光入込客数	2,841 千人	目標 +29 千人 (2,870 千人)	+30 千人 (2,900 千人)	+40 千人 (2,940 千人)	+60 千人 (3,000 千人)	+80 千人 (3,080 千人)	+239 千人 (3,080 千人)	目標1の観光入込客数については、7月の豪雨の影響を受け、前年度より8.5%下がった。 目標2のレンタサイクル利用件数についても、豪雨や台風の影響により、前年度より12.2%下がった。 目標3については、前年度比4.8%ほど下がったが、この要因については、当該数値を暦年で計測していることに加え、宿泊事業施設のリニューアルオープンが4月末となり、1～4月分の利用料収入がなかったためである。リニューアル前の平成28年と比較しても、一月あたりの平均収入額は約2,254千円から約2,805千円へと24.5%ほど向上している点に鑑みても、平成31年以降においては、更なる収益の改善が見込まれる。
		実績 ▲60 千人 (2,781 千人)	+37 千人 (2,818 千人)	▲239 千人 (2,579 千人)			▲262 千人 (2,579 千人)	
		達成度 ▲206.9%	123.3%	▲597.5%			▲109.6%	
目標2 レンタサイクルの利用件数	67,012 台	目標 +2,988 台 (70,000 台)	+4,000 台 (74,000 台)	+5,500 台 (79,500 台)	+7,200 台 (86,700 台)	+7,500 台 (94,200 台)	+27,188 台 (94,200 台)	
		実績 ▲4,664 台 (62,348 台)	+4,024 台 (66,372 台)	▲8,068 台 (58,304 台)			▲8,708 台 (58,304 台)	
		達成度 ▲156.1%	100.6%	▲146.7%			▲32.0%	
目標3 施設利用収入	26,000 千円	目標 +2,000 千円 (28,000 千円)	+2,000 千円 (30,000 千円)	+6,000 千円 (36,000 千円)	+3,000 千円 (39,000 千円)	+4,000 千円 (43,000 千円)	+17,000 千円 (43,000 千円)	
		実績 +1,050 千円 (27,050 千円)	▲3,458 千円 (23,592 千円)	▲1,153 千円 (22,439 千円)			▲3,561 千円 (22,439 千円)	
		達成度 52.9%	▲172.9%	▲19.2%			▲20.9%	

事業の目的	近年急増している外国人サイクリストを中心とした観光客の島しょ部における周遊・滞在拠点を整備するため、大三島ふるさと憩いの家(大三島宗方)を改修して集客力と拠点性の強化を図るもの。	事業費	117,149千円
施設整備の内容	<p>【拠点機能強化のための建物改良】 国内外からサイクリストや観光客を呼び込み、島しょ部における滞在・交流拠点として機能強化を図るため、2階建て棟の2階部分の一部を食堂兼交流スペースとして利活用できるよう屋根・床下の改修と耐震補強工事を実施した。2階建て棟の屋根は瓦屋根から板金屋根に改修して軽量化し、耐震性能を高めた。</p> <p>【入浴施設の増設】 海を眺めながら入浴できる風呂棟(セミパブリックバス)を増設し、風呂棟と本棟(2階建て棟)の間には、景観に配慮した誘導路として渡り廊下(石畳)を設置し、利用者の利便性を向上させ、滞在拠点としての機能強化と誘客促進、交流機会の拡大を図る。</p> <p>【インバウンド誘客のための模様替え】 客室のフローリング化や来訪者も利用できる洋式トイレの増設、交流スペースの設置、食堂の内装や照明等の改修により、宿泊・利用環境を整備することで滞在拠点に必要な快適性を高め、インバウンドの誘客促進を図る。</p>		
事業効果	廃校となった木造の小学校を耐震化し、宿泊施設及び地域の交流拠点としてリノベーションを行うとともに、海の見える風呂棟の新設による新たな観光機能を付加することで、瀬戸内しまなみ海道におけるサイクリストやインバウンドの滞在・周遊の拠点や地域住民の交流の場として利用されることで、地域の活性化に繋げることができた。		

施設の活用状況

- ・ウェディングパーティー(6/30 80名参加)、地域の伝統行事である宗方權伝馬(8/13 30名参加)、水軍焼陶芸教室(9/2 4名参加)、ワイン講座(9/16 10名参加)、愛媛・ハワイ高校生会議(10/29 20名参加)のイベントが開催され、交流スペースを地域住民の交流の場として地域の活性化に繋げることができた。
- ・伊東建築塾が主催するや伊東豊雄建築ミュージアムこどもワークショップ(9/8 50名)、伊東建築塾建築ツアー(2/9 8名)など伊東建築塾との連携事業を実施されている。
- ・施設の稼働率は22.0%(H29年)から27.7%(H30年)へ向上している。
- ・新設された海が見える展望風呂は施設の特徴であり、人気を呼んでいる。
- ・屋根・床下の改修と耐震補強工事、一部客室の洋室化、洋式トイレの設置により以前より快適性が増した。

外部有識者からの意見

(意見)

- ・リニューアル前のH28年と比べ、ひと月あたりの平均収入や稼働率が上がっていると分析されているように、サイクルシティ構想の推進にある程度効果が得られたのではないかと思う。